

平成 22 年度まちづくり懇談会会議録【加茂地区】

日 時 平成 22 年 7 月 22 日 19 : 00 ~ 21 : 00
会 場 加茂地区センター
参加者 55 人

市長、副病院長からの「みんなで進める安全・安心なまちづくり」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談(質疑応答)に入りました。

(1)病院・地域医療に関する意見交換

地区自治会からのご意見・ご質問

白岩段自治会より:地域医療の将来像について

菊川市立総合病院は、内科初診の際に紹介状を提示することや、時間外患者の急患診療室への利用促進等負担の軽減を行い、リハビリ機能を強化することで役割の明確化を図ってきたことは理解します。その後、家庭医養成プロジェクトを発足させ、4名の研修医を採用、事業を開始されていますが以下の点についてご教示ください。

1. 家庭医養成プロジェクトの将来計画は具体的にどのようなようになっていくのか
いつまでに、医師を何人増加させていくのか
その結果、総合病院の収支計画はどのようなようになっていくのか
そして、初診患者の受け入れ態勢はどのように変化するのか
2. 現在内科初診患者を受け入れている開業医は、営業面から予約体制を導入し、急患初診が行っても、「当院は予約制で行っていますので待ち時間がかかりますよ。」との返事で、診察まで長時間待たされるときがあります(2時間程度)。総合病院から開業医に対して、急患初診患者へのきめ細やかな配慮をするよう、指導・要請を行なっていただきたい。

市立総合病院からのお答え

- 1 最初に家庭医養成プロジェクトについてであります、

このプロジェクトは、国の支援、補助金をいただき、静岡県地域医療再生計画に基づき実施する事業で、磐田市立総合病院、公立森町病院、菊川市立総合

病院の三病院が協議会を設立し、4年間の計画で実施する事業です。

地域医療再生計画では、研修期間は3年間で、毎年4人程度の専門研修医を全国から募集する計画です。

収支計画については、協議会への負担金や2年目以降の研修医の給与費、現在改修を計画している家庭医療センターの管理費などの負担が発生してまいります。一方、家庭医療センターの外来や往診、菊川病院の救急外来で診療にあたりますので、その診療収入が見込まれます。

救急や外来、往診などの一部を家庭医が担い、その分、菊川病院の医師は、重症患者の入院治療などに特化していくことを計画しています。この事業の最大の目的は家庭医の育成であり、費用の負担は見込まれますが、病院経営全体の中で収支のバランスが取れるよう努めてまいります。

次に初診患者の受け入れ態勢であります。菊川病院の内科については、初診の場合は診療所の先生の紹介状をお持ちいただいております。市民の皆様にも大変ご不便をお掛けしておりますが、家庭医は、診療所の先生の紹介状をお持ちいただかなくても診察をいたします。

今後は、菊川病院の外来の一部の機能を、家庭医にシフトできればと考えております。家庭医を受診し、入院が必要となった場合や、退院後のフォローなど、家庭医療センターと菊川病院が連携を取ることができるよう、電子カルテにより患者情報を共有する計画で事業を進めております。

2 次に内科の初診患者の受入についてであります。ご質問の開業医の先生は、患者様にお待ちいただく時間を短くするため、予約制度を導入されているものと思われます。最初に、急患の場合には、受付で病状をよく説明していただくことが大切です。当院におきましては、病状によっては、(例...激しい痛みがある場合など)優先して治療にあたるように心掛けております。来院する患者様が1分1秒でも早く診ていただきたいというお気持ちもごもっともであり、可能な限りお待ちいただく時間が短くなるよう努めておりますが、発熱などの場合には受付の順番により受診していただくこととなります。

先ほどの説明にもありましたが、菊川市の医師数は全国平均に比べて半数以下の数値となっております。このような状況のなか、当院の内科勤務医の減により、医師の負担が増し、疲弊が大きな問題となり、内科の初診については紹介制度を導入しました。この点については、地域の診療所の先生方にもご協力いただき、大きな負担をお掛けしているものと推測します。市民の皆様にもご不便をお掛けしておりますが、このような現状もあることをご理解いただけれ

ばと思います。

白岩東自治会より:医療体制について

市民からすると緊急時の受診がしにくくなっている。

夜間等は当番制を設けてはいるが、もう少し開業医での夜間受診時間の延長等充実できないかご教示ください。

市立総合病院からのお答え

夜間の診療については、平成 21 年 4 月から掛川市の小笠医師会館内に急患診療室を設け、平日は午後 7 時から午後 10 時まで、日曜及び祝日は午前 9 時から午後 5 時まで、医師会の先生方の協力のもと、救急診療を行っています。

これにより、当番医の先生を確認する手間が省け、上記の時間内であれば、事前に電話連絡の上、急患診療室にお出かけいただくこととなります。

なお平日の午後 10 時以降、土曜日の午後 7 時以降、日曜祝日の午後 5 時以降は菊川市立総合病院で診療を行っています。

会場からのご意見・ご質問

男性:

副病院長さんから説明をいただいた家庭医の話ですね、その中で開業医さんとの連携がどのような形になっていくのかがわからなかったので、ご説明いただければありがたいと思います。

副院長:

これは非常に難しく、もともと家庭医は日本にないものを導入しているので、はっきりこうなるといのは、やってみないとわからないというところがあります。ただ、もともと家庭医像というものは、よくよく見ると大きくは開業医の先生と似ているんですね。もともと外国にはないが日本には開業医という制度があって、それが機能している。今も菊川でも開業医の先生が非常によくやっけていただいている。これはどうなるかわかりませんが、これからは、家庭医のセンターのほうでは診察もしていくが、お互い連携をとって、例えば一人の患者さんを開業医の先生が 1 人で 24 時間 365 日往診するのはやっぱり無理なので、両方の先生が連携して診る。「この時間帯はわたしが診ます」「夜はグループでまかせてください」といったような協力の仕方とか、お互いに勉強会をするなど。一生懸命勉強し合えば医療のレベルは地区で上がっていくと思いま

す。こういう協力体制をとっていくのが良い。「これはわたしの患者さんだからあなたには診せない」というのではなく、一人の患者さんが困らないように。そういうような協力体制を作っていくのが理想的でもあるし、実際そういうようになると思います。

企画政策課長:

1つ確認させていただいてよろしいでしょうか。急患の初診の患者さんについて、自治会さんから2つ同じような質問がでておりまして、急患への対応というのは非常に関心があるところですので、この件についてご説明いただければありがたいのですが。

副院長:

基本的な考え方は、病院はすぐに手術をしないといけない患者さんや、早い対応が必要な重症な患者さんがいるものですから、本当は全て診て誰かが振り分ければいいのですが、今はそれだけのマンパワーがないので、他の科は別にして内科に関しては、申し訳ないですけど基本的には開業医の先生のところへ一度行っていただいて紹介していただくことになっている。ただ、本当に具合の悪い方については決してお断りしているわけではないので、救急車で来ていただいてかまいません。

時間外でも来ていただいた患者さんに対しては、ベテランの看護師が診て、この人はすぐに診なくてはいけない、この人は少し待てるといったような判断をして対応しておりますので、申し訳ないですけど基本的にはこの体制は今の制度ができてあまり変わらない。

ただ、皆さんが困らないように、必ず誰かが診て対応できるようなシステムを作るつもりでおりますので、これに関してはご協力をお願いします。

企画政策課長:

平日の昼間は小笠診療所でも予約なしで診ていただける訳ですよ。

副院長:

本当に急を要する患者さんは菊川病院にすぐ来ていただいてかまいませんが、余裕があるように自分で感じられるのであれば、小笠診療所に行っていれば、先生方がすぐに診てくれますので、そうしていただければ非常にありがたいです。

もし行って必要があれば、すぐ電話やコンピューターで紹介が飛んできますので対応は可能です。

まちづくり全般に関すること

白岩段自治会より:商業集積に対する市の基本的な考え方について

菊川市のまちづくり基本方針の中で、産業面において「既存商業集積の活性化と新商業集積の形成」となっております。

最近よく聞かれる話に

- ・「駅前商店街区画整理によって商店街が無くなってしまったね。」
- ・「昔の本通りは現在車が通れず不便で、何のための区画整理なんだろうね。」
- ・「電車で来て菊川駅に下りても何も無い駅前になってしまったね、食事をする処も無いね。」

駅前、駅南地区の現状に対する市民の感情は必ずしも芳しくありません。

地元における消費推進活動は重要なことと考えます。

市として、菊川市における商業集積地をどのように展開していくのかご教示ください。

建設経済部長:

「菊川市第1次総合計画」では、躍進する産業のまちの目標の一部として「既存商業集積の活性化と新商業集積の形成」の施策の柱として位置付けています。

しかし、社会経済構造のトレンドが「拡大成長」から「持続的成長」への転換している。「少子高齢・人口減少」が急速に進展している。「地球温暖化など環境対策への対応」が求められている。こうしたことなどから、此れまでの大規模店舗の郊外立地は、自動車に過度に依存するなど交通エネルギー消費量が多いこと、道路など後追いのインフラ整備が必要になるなど従来型の「拡大・拡散型都市構造」には課題があり、今後にあっては、高齢者社会に対応する、歩いて暮らせるまちづくり、環境負荷が低い、「集約型都市構造」にシフトする必要があると考えています。

したがって、今後における商業集積（商業振興策）の方向としては、菊川駅周辺や平川地域など既存商店街を中心に商業・業務系や住居系の機能強化を図り、良好な市街地形成を図って参りたいと考えております。

既存商店街の活性化対策では、一昨年からの景気対策として商工会と連携してプレミアム商品券の発行を支援し、地域での消費推進策を実施してきました。今年度は、商工会館の建設も予定され、産業拠点ができることで市全体の活性化に繋がればと考えていますので、経済団体や商店街組合と連携して活性化事業などを検討していきたいと考えています

白岩段自治会から再質問

一言だけ申し上げます。これは答えがまったく見えておりません。お答えする気持ちはわかりますが、住民はイメージが出てこないと解らない。今日はそういうものを期待していましたが。今日はこれで結構です。

白岩東自治会より:避難地、避難所の指定変更について

過去に災害が発生した被災地で、学校が避難地として使われていても、1週間から2週間後には学校教育が再開されたため避難地を転々とするという状況が見られた。

そのため、現在西中学校を第2避難地としているが、関東農政局西関東土地改良調査管理事務所と舟岡山公園を活用することは出来ないでしょうか、ご教示ください。

総務企画部長:

市が指定する避難地・避難所は小中学校等の公共施設を指定しています。市の指定というので、おおくくりで学校区単位で指定させていただいております。また、菊川西中学校については、運動場を避難地として指定しており、生徒の授業にできる限り支障がないような配慮をしております。

ご質問がありました、関東農政局西関東土地改良調査管理事務所と舟岡山公園の指定については、市の避難地としての指定というよりも、むしろ自治会の避難地として利用するほうが適当であると市としては考えています。今後の施設管理者との協議等についてもわたしどものほうでも行っていきたいと考えておりますので、そういったお考えがあるようでしたらご相談をいただければと思います。

白岩下自治会より:中東遠地域の道路整備(拡幅と接続)について

1. 将来の計画について
2. 小笠バイパスの将来計画見通しについて
3. つま恋～運動公園～西方、伊達方方面の計画見通しについて
4. JR 菊川駅東アンダー～日坂、道の駅方面の見通しについて
5. 駅前を南下した幅の広い道路は短い距離で突き当たりとなっているが南に延びる計画はあるのですか

以上の点についてご教示ください

建設経済部長:

質問が5つありますので、個別に回答させていただきます。

1．中東遠の広域道路整備は、陸海空の広域交通ネットワークの確立が大変重要と考えております。具体的には、新東名掛川インター・御前崎港・静岡空港を結ぶ幹線道路網の整備を重要な路線として考えています。そのため、国・県・市が協働により新東名建設、国道150号4車線化、国道473号バイパス、掛川浜岡線バイパス、県道吉田大東線の拡幅等を進めています。

2．小笠バイパスの整備状況ですが、奈良野から大鹿池東側を通り下平川地内へ至る区間は、合併支援道路として平成17年から整備を進めており、平成25年春の開通を目指し工事を進めています。また、下平川から丹野川を越え赤土へ至る区間は、県が施行する区間ですが、平成27年春の開通を目指し施行していただいています。赤土から高橋へ至る区間についても、昨年ルート変更を行い、整備も順次行ってまいります。現在の経済状況、財源の問題が解決されれば、小笠バイパス全体としては平成20年代後半の開通となると考えます。

3．つま恋～運動公園～西方、伊達方方面の計画見通しについては、道路の利用状況や混雑渋滞等を踏査し、また、掛川市の整備計画や県との調整を図るなかでルート選定を検討してまいります。

4．JR菊川駅東アンダー～日坂、道の駅までの道路整備については、朝日線アンダーの投資効果を生かすため、広域的な交通ネットワークを構築するためにも検討は必要であると考えますが、現時点で具体的な計画はありません。事業化には多くの課題があるため、関係者のご意見を伺い、今後検討してまいりたいと考えます。

5．駅前を南下する幅の広い道路は「中央通り線」と思われますが、区画整理事業と合わせて工事完了し、供用開始しています。現時点で南側へ延長する計画はありません。

小川端自治会より:菊川市宮の西土地区画整理事業について

全体の事業計画 それに対しての進捗状況

当初の事業計画 変更等あるのか(消防署の予定地)

平成22年度事業計画 それに対しての進捗状況

公共用地、商業用地、住宅地等のすみ分け(色分けでの地図)説明

現在工事中の三軒家地区～小川端地区(パチンコ店前から元レストランさわやか)辺りまでの新しい道路はどのようになるのか、取り付け道路又周辺の生

活道路変更状況等（とりあえず現加茂橋につなぐと言う話があるが）

三軒家地区との境、三共機械(株)北側、東西交通の道路が細くネックになっている。

民地との話もつき計画通りの拡幅道路が出来ると言うが、いつ頃になるか。

現在この場所は、加茂橋西側道路閉鎖の為児童通学路になっているので配慮を願う。

「小川端地区児童通学路について」

小川端橋を渡り、加茂大通り東側歩道を警察署方面に向かう道路を通っている。

6月29日の加茂小学校交通安全リーダーと語る会でも問題点になったが、小川端橋を渡る時怖い思いをする。

歩道等あれば一番良いが何か対策をお願いします。(通学路の色分け、看板等)

加茂大通り、歩道沿いに事業所宣言用の幟旗が大量に立っている。

特に雨降り、風向き等により危険な時がある。歩道幅も植え込み、旗により狭くなる。

児童が傘をさしての通学、そこに中学生の自転車通学すれ違いが出来ない。

事業所への通達、協力等をお願いしたい。

建設経済部長：

「宮の西土地区画整理事業について」

H21年度末の進捗率は事業費ベースで82%です。

区画整理事業そのものの計画変更はありませんが、加茂橋については変更がありました。消防署予定地の件については後ほど消防長からご説明いたします。

年度当初であるため進捗率は約2%。今後は建物等の移転が完了した箇所から整備を進めていきます。

計画上の用途種別で言うと、第1種低層住居専用地域が約42%、第1種住居地域が約38%、第2種住居地域が約20%となっています。実際の利用状況は全体の土地利用率は75%である。内訳は一般住宅地が20%、共同住宅地が7%、商業系が22%、医療関係が1%、事業所系が12%、公共系が4%、暫定利用が2%、農地7%となっています。

当初の予定では、現加茂橋の南側に新しい橋を架ける予定でしたが、他の大型事業の長期化や厳しい財政状況のなか、事業化の目処がたっていないのが現状です。従って、当面の間は現加茂橋に暫定的に取り付ける予定です。

建物移転補償が1件残っておりますが、今年度中の完成を目指しております。

「小川端地区児童通学路について」

小川端橋は歩道がなく、交通量も多く歩行者の方には不安をおかけしております。都市計画道路に位置づけしているため、将来的には歩道付きの道路整備を行う予定ですが、今すぐに事業化の予定はありません。また、橋梁部については、グリーンベルトを設置して歩行者ゾーンに位置づけするよう検討したいと考えています。

事業所の宣伝用の旗は、歩行者の安全を守るためにも、事業所への理解と協力を求め、適切な指導方法についても検討します。

消防長：

消防署に関しては、市の合併に伴い単独の消防署となったことから、再度、建設用地の検討するため検討委員会を立ち上げて検討しています。宮の西への消防庁舎建設は、合併以前の組合消防時代に建設予定地として取得しました。その後合併に伴い単独消防となったことから、改めて検討委員会を組織し現在検討しているところでございます。

また、ここへ来て消防に新たな動きがありました。119番通信指令業務の広域化は中東遠の5市1町で平成24年4月1日に向けて準備が進められています。また、消防の広域化ということで、H25年の4月1日を目標に、東遠地域の消防本部を菊川市・御前崎市・掛川市で広域化へ向けた取り組みを進めております。消防庁舎の建設用地につきましては、整備事業検討委員会で現在の経緯を説明したうえで再度検討しているところでございます。

白岩下自治会より：菊川市幼稚園・保育園の施設整備について

菊川市幼稚園・保育園の施設整備について、「こどもみらい課」を中心に平成21年度から具体的に検討が進められ、平成22年度は更に一步前進した検討に入っているとのことですが、加茂幼稚園後援会としましても、一日でも早く新しい施設ができることを願っております。

つきましては、それに関連して以下の点について質問いたします。

- 1 現在進められている委員会の名称及びその構成についてお答えください。
- 2 本年度にすでに2回委員会を実施しているとのことですが、その会議ではどんなことが話し合われたか、要点をお答えください。
- 3 今後の話し合いの実施予定、及び今年度中の目標をお答えください。
- 4 平成23年度以降、新施設開園までの現段階における見通しについてお答えください。

市民生活部参事:

加茂幼稚園、内田保育園につきましては、老朽化がかなり進んでおり、市としても早急に改築が必要であると認識しており検討しているところです。

現在検討を進めている委員会の名称は、菊川市公立等幼稚園保育園運営及び施設整備検討委員会、委員の構成については、福祉団体の代表者1名、学識経験を有する者2名、民生児童委員2名、教育委員1名、加茂地区・内田地区代表者2名、幼稚園保育園父母会代表者2名、副市長、教育長の12名及びアドバイザーとして常葉学園短期大学保育科教授1名で構成しております。

第1回目については、平成21年度に委員会にて幼保一体型施設で建設することが望ましいとの提言がありましたので、この提言についての説明及び加茂幼稚園と内田保育園整備手法について協議、第2回目については、掛川市公立保育園、加茂幼稚園、内田保育園の現地視察を実施しました。

今後の実施予定については、平成22年度中に5回開催予定。今年度中の目標については、建設候補地の選定を予定しています。

平成23年度以降については、建設候補地が決定すれば用地測量、基本設計、地質調査、実施設計等を順次進める予定です。最終的には平成25年度に建設して平成26年4月1日から開設したいと考えておりますので、皆様方のご理解とご協力をお願いします。

白岩下自治会:

今まで加茂幼稚園の後援会としても、いろいろ努力してまいりましたが、やっと具体的な見通しが立ってきたということでありがとうございました。これから該当地域の住民が最も納得する場所に、菊川市としてモデル的な幼保園を設置していただければと思います。

閉会(21:00)